

委託事業実施内容報告書

平成20年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業

【日本語能力を有する外国人を対象とした日本語指導者養成】

受託団体名 NPO 大泉国際教育技術普及センター

1 事業の趣旨・目的

日本語能力を有する外国人が、現在少しずつ育ってきている。彼らの努力により、進学・就職などの問題を克服しちきてはいるが、日本語の深い理解・外国人の多様なニーズへの対応など、補わなければならないことも多々ある。

日本の大学に進学したバイリンガルの日系人青年や、ブラジル人学校で学びつつ、日本語習得をめざして一定の効果をあげている日系人青年を対象に、さらに深くレベルアップした日本語を習得して、講師として指導できる力を獲得してもらうことを目的としている。

またこの講師の指導で、日本の高校・大学受験に対応できる外国人のこどもたちの層の拡大を図る。

日本人が外国人に日本語を教える方法より、彼ら外国人がコミュニケーションをとりながら、日本語や日本の生活習慣や風習等を教える方法をとれば、日本語を理解・浸透させる速度は、急速になることは確実である。日本語の上達のみならず、生活に必要な情報の提供、さまざまな文化への理解を深めていくことにより、外国人が多様なニーズに対応でき協調できるよう、コーディネートできる感覚を養成し、人材育成を図る。

2 運営委員会の開催について

【概要】

開催日時	出席者	議題	会議の概要
11月20日	拝野寿美子 戸澤江梨香 長ヶ部さつき 高野祥子 中西智美	・講座開催内容説明 ・講座日程確認 ・講師・補助者紹介 ・使用教材について ・その他	現在の受講者の状況や、学力・環境等を考慮し、講座の計画を立案。
2月17日	イシ・アンジェロ 戸澤江梨香 長ヶ部さつき 高野祥子	・講座進行状況確認 ・問題点確認 ・使用教材について ・第12回～第14回授業に	社会情勢等大きく変動し受講者が増加した。当初の計画を変更しなければならないことにな

	中西智美 齊藤正子	取り入れたいこと ・その他	り、検討した。
3月3日	イシ・アンジェロ 戸澤江梨香 長ヶ部さつき 高野祥子 中西智美 齊藤正子	・講座進行状況確認 ・問題点確認 ・使用教材について ・第15回～第17回授業に 取り入れたいこと ・その他	授業の内容・受講者の 理解程度を検討。受講 者の学力のばらつきを 考慮し、講座内容によっ て、クラスをつくること に決定。
3月17日	拝野寿美子 戸澤江梨香 長ヶ部さつき 高野祥子 中西智美 齊藤正子	・講座の内容報告 ・本講座の反省 (授業内容・教材等) ・今後の課題 ・その他	全17回をふり返って、 受講者の反応、理解程 度等を、反省点をまじえ 報告。今後の課題や、 対応を検討した。

【写真】 会議風景



3 日本語教室の開催について

- ① 日本語教室の名称 バイリンガル講師育成のための、日本語指導者育成講座
- ② 開催場所 NESPO 日伯学園高等部教室
- ③ 学習目標 長文・小論文作成と、漢字の習得する。
文法上の言葉と日常必要な言葉の理解促進を図る。
実際生活上不可欠な情報等に対応できる能力を育成する。
政治・経済・社会・文化その他の知識を身につけながら日本語を体得する。
- ④ 使用した教材・リソース
「日本と反対側の国・ブラジル」(佐藤郡衛監修『世界の友だちとくらし ブラジルの友だち』
まぬけ村物語(岩崎 明作)
「ボランティアって何?」

オリジナル教材

- ・ビジネス・マナー資料(挨拶・お辞儀・名刺交換・尊敬語、謙譲語、丁寧語の違い)
- ・呼称について
- ・手紙・文書の書き方

手紙～拝啓十五の君へ～(楽譜)

CD Kaishá de Música

セルフ・ドキュメンタリー映画『ヒョジョンへ』

「初めての日本移民 大武和二郎」Folha de São Paulo,nobembro de 2008

伊能美智子 合唱曲集より「小倉百人一首 1. 花の色は 2. 吹くからに」

⑤ 受講者の募集方法

大泉町・太田市のブラジル教育省認定校5校に呼びかけた。

⑥ 受講者の総数 21 人(延べ人数ではなく, 受講した人数を記載すること。)

⑦ 開催時間数(回数) 34 時間 (全 17 回)

⑧ 日本語教室の具体的内容

回	開催日時	時間数	参加人数	国籍・母語(人)	教授者・補助者人数	内容
①	11月20日 16:00~18:00	2時間	9人	ブラジル ポルトガル語(8人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 通訳各1人	ポルトガル語から日本語への翻訳1(長文) 「日本と反対側の国・ブラジル」使用
②	11月25日 16:00~18:00	2時間	9人	ブラジル ポルトガル語(8人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 通訳各1人	台詞を通しての日本語の発音とイントネーション 「まぬけ村物語」
③	12月2日 16:00~18:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人	ボランティア精神とはどのように養われるか 「ボランティアって何？」
④	12月9日 16:00~18:00	2時間	24人	ブラジル ポルトガル語(23人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人	ボランティア精神とはどのように養われるか 「ボランティアって何？」
⑤	12月16日	2時間	8人	ブラジル	教授者1人	ビジネス・マナー

	16:00~18:00			ポルトガル語(8人)	補助者1人 コーディネーター 通訳各1人	挨拶・お辞儀・名刺交換・尊敬語、謙讓語、丁寧語の違い オリジナル資料
⑥	1月13日 16:00~18:00	2時間	9人	ブラジル ポルトガル語(8人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人	外国人留学生制度について オリジナル資料
⑦	1月20日 13:00~15:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 1人	呼称について オリジナル資料
⑧	1月27日 13:00~15:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 通訳各1人	歌を通して覚える1(手紙) 手紙~拝啓十五の君へ~(楽譜) オリジナル資料
⑨	2月3日 13:00~15:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 通訳1人	歌を通して覚える2(手紙) 手紙~拝啓十五の君へ~(楽譜) オリジナル資料
⑩	2月10日 13:00~15:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 通訳1人	歌を通して覚える3(手紙) オリジナル資料
⑪	2月17日 13:00~15:00	2時間	12人	ブラジル ポルトガル語(11人) 日本語(1人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 1人	日本語学習の意欲向上1「生きた日本語」 写真等オリジナル資料
⑫	2月24日 13:00~15:00	2時間	3人	ブラジル 日本語(3人)	教授者1人 補助者1人 コーディネーター 1人	ポルトガル語から日本語への翻訳2(長文) 「初めての日本移民大武和三郎」
⑬	2月24日	2時間	16人	ブラジル	教授者1人	歌を通して覚え

	13:00~15:00			ポルトガル語 (16人)	補助者 1人 通訳 1人	る4 (百人一首) 伊能美智子 合唱 曲集
⑭	3月3日 13:00~15:00	2時間	20人	ブラジル ポルトガル語(19人) 日本語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人 コーディネーター 1人	日本語学習の意 欲向上 1「多文化 共生の重要性」 CD Kaishá de Música 映画『ヒョジョンへ』
⑮	3月10日 13:00~15:00	2時間	11人	ブラジル ポルトガル語(10人) 日本語 (1人)	教授者 1人 補助者 1人 コーディネーター 通訳各 1人	大泉町をガイド する オリジナル資料
⑯	3月17日 13:00~15:00	2時間	3人	ブラジル 日本語 (3人)	教授者 1人 補助者 1人 コーディネーター 1人	ポルトガル語から日 本語への翻訳 3 (長文) 「初めての日本 移民大武和三郎」
⑰	3月17日 13:00~15:00	2時間	17人	ブラジル ポルトガル語 (17人)	教授者 1人 補助者 1人 通訳 1人	歌を通して覚え る5 (百人一首) 伊能美智子 合唱 曲集

⑨ 特徴的な授業風景(2~3回分)

第7回授業「呼称について」



第9回授業「歌を通して覚える2」



第11回授業「日本語学習の意欲向上1」



⑩ 支援者の名簿

氏名	所属	専門分野及び日本語教育に関する資格	参加回数	当該教室での役割
なし				

4 事業に対する評価について

① 当初の学習目標の達成状況

長文・小論文作成に関しては、かなり難解な文章も書けるようになった。

文法上の言葉と、日常必要な言葉の理解促進に関しても、マナーや尊敬語等の理解を含めて、身についたと考えられる。

実際生活上不可欠な情報等の対応についても、新聞やその他の情報の理解につながった。

政治・経済・社会・文化その他に関しては、実際文化を理解し、また紹介できるまでに至った。

② 学習者の習得状況

学習者に、学力・理解力のばらつきがでてしまった。というのは、この経済状況の中、

学習者の環境その他の事情により、途中から受講者が増加してしまい、初回からの習者との能力の差が顕著になってしまい、均一に指導することが困難となってしまった。日本人さえも書けないような、難解な文章を書ける者と、そうでない者との差が、回を重ねるごとに、目立ってきてしまった。

③ 日本語教室設置運営の効果, 成果

今回の講座を開催して、短い期間であったがかなり大きな成果があがったことと思われる。この講座を継続して行えば、より大きな成果があげられることは、明白である。この講座に大勢の若者が参加し、将来日本語指導者として育っていくことを願う。

④ 地域の関係者との連携による効果, 成果 等

地域関係者との連携は、かなりできたと思われる。

地方FM局の報道関係者、企業等でマナーを指導される講師、地域観光協会・商工会関係者・地域文化振興団体等関係者との連携により、各層の幅広い協力が得られた。

⑤ 改善点, 今後の課題について(具体的に記述する。)

a. 現状

当初、授業時間を 16:00～18:00 に設定し 行っていたが、学習者の関係で、13:00～15:00 に繰り上げた。時間帯、会場の設定を考慮しなければならない。

また、学習内容についても、学力の差を考慮して、導入の方法、そこからどのように発展させていくかを検討する必要がある。

b. 今後の課題

内容を、大きく分類して何回か同じ内容で続けて講座を設ける必要がある。今回は、まだ初めてのことで、いろいろな内容を盛り込み 行った。どうすれば、理解を早められるか、どのように進めたら興味を持つか等、把握できたので、今後にかかしていきたい。

c. 今後の活動予定, 展望

今後この講座に日本人の若者たちが一緒に参加し、お互いがよりよく影響しあって、成長してもらいたい。

⑥ その他参考資料